

2010東北アジア発展フォーラム

ERINA 調査研究部研究員 穆堯芋

8月29日～9月1日、中国民間組織国際交流促進会、中国人民対外友好協会、中国人民外交学会、中国国際問題研究基金会、遼寧省人民政府主催の「2010東北アジア発展フォーラム」が瀋陽市で開催された（写真）。中国、日本、韓国、ロシア、モンゴルなどから地方行政の担当者が参加し、瀋陽市の経済発展と環境保護について専門家による活発な議論が行われた。

「2010東北アジア発展フォーラム」はトップフォーラム、新興産業の発展と投資促進分科会、生態系重視の都市建設と投資協力分科会の3部で構成された。関連行事として企業視察も行われた。

トップフォーラムでは遼寧省長の陳政高氏、日本の自民党元幹事長武部勤氏などの挨拶があった。その後、日本の札幌市、長崎市、佐世保市、韓国の亀尾市、光陽市、ロシ



アのイルクーツク市、地元遼寧省、瀋陽市の行政トップが講演した。講演者は各都市の状況や北東アジア諸国との経済関係について紹介した。

新興産業の発展と投資促進分科会では、行政、企業とシンクタンクの専門家が産業、技術、交通、金融、ITサービス、開発計画、国際協力など幅広いテーマについて議論を行った。米国系企業のIBM（中国）、J.P.モルガン（中国）、日本の北海道銀行、浜松市、韓国の知識経済部、産業研究院、中国の遼寧社会科学院などが報告した。

生態系重視の都市建設と投資協力分科会では、日本の環境省、川崎市、鹿島建設、ドイツ系企業のシーメンス（中国）、米国系企業のGE（中国）、韓国環境政策評価研究院、仁川発展研究院、中国の瀋陽市環境保護局などの専門家による発表が行われた。自然生態系重視の都市建設が議論され、特に環境保護をめぐる日本の自治体の先進的な取り組みと優れた環境技術に関心が集まった。

全体の感想として、瀋陽市で開催された今回のフォーラムは北東アジアの発展と国際協力を議論したというより、世界的な知識を取り入れながら瀋陽市の発展を検討したように見える。そういう意味で、フォーラムの参加は「北東アジアの中の瀋陽」ではなく、「世界の中の瀋陽」について考えることができたと言えよう。北東アジアの発展には世界的な視野が必要であろう。今後は、北東アジアとの関連についていっそう議論が深まるように期待する。